

言うてゐる。

**ゴウ 郷** 珠洲郡檜原の内の小字。

**コウアン** 泉庵 天授五年五月を以て生まれ、江沼郡榎屋天神に奉仕したが、後釋に歸した。中古高僧名集に『泉庵。夢窓弟子郁天章也。相國寺僧也。天下善僧也。具庵序。睡說。有『梅城錄。』と見え、北野漢章の附言には、『夢窓國師の弟子泉庵は、藤氏の人ががら、神徳を慕ひ奉りて、諸書を抄出して梅城録をあらはせり。是をや神教をうけつげるともいふべからん。』とある。梅城録は管公の聖徳をたゞへたもので、漢文を以て記され、賀江餘節男庵庵述と著してゐる。その賀江といふは加賀江沼郡を意味し、榎屋天神の所在たる直下村の産であつたのである。

**コウアンケン** 高安軒 大乘寺が石川郡富樫庄野々市に在つた時、觀應元年同寺三代明峰素哲が塔頭として建立したものと云ふ。富樫昌家の弟壇家一名高泰の開基に係るからの名だといふが、果してどうか。寧ろ高安庄にあつたからではあるまいか。その後大乘寺の移轉に隨つて寺地を金澤に移し、元祿十年には今の大乘寺山に移つた。明治の後高安軒は廢したが、次いで金澤榮昌庵の直指石應が野々市に庵を結んで、之を高安軒と號した。

**コウインジ** 高印寺 金澤六斗林曹洞宗玉龍寺の塔頭であつた。天文三年尾州前田にて玉龍寺二代材長和尚之を建立し、後金澤に移つて常に玉龍寺拜領地の内に在つたが、寶曆九年の火災に逢つた後斷絶した。

**コウウインジ** 光雲寺 鹿島郡池崎に在つて、眞宗西派に屬する。もと眞言宗孝恩寺であつたが、寛永七年住僧智現の時改宗して寺號を

も更めた。

**コウエイジ** 興榮寺 河北郡蒲波に在つて、日蓮宗に屬し、妙扶山と號する。文安中本線院日弘の創建であるといふ。明治四十一年同部落の法華寺を合併した。

**コウエイジ** 光榮寺 四至郡石井に在つて、眞宗東派に屬する。

**コウエイジ** 光榮寺 四至郡熊野に在つて、眞宗東派に屬する。その庭前にある枝垂櫻の老樹は著名のものである。

**コウエイジ** 廣榮寺 珠洲郡大谷に在つて、眞宗東派に屬する。

**コウエキガクヒツドク** 廣易學必讀 二冊。新井白蟻著。先に著す所の古易斷・古易類篇の遺漏を輯録したもの。嘉永二年會孫新井直が序を附してゐる。

**コウエンジ** 幸園寺 石川郡金石に在つて、眞宗東派に屬する。明治十二年六月寺號公稱の許可を得た。

**コウエンジ** 光園寺 河北郡雨森下に在つて、眞宗東派に屬する。

**コウエンジ** 光園寺 鹿島郡山崎に在つて、眞宗東派に屬する。

**コウオンジ** 光穩寺 鹿島郡永光寺藏明德二年十一月十日僧福壽判書に、羽咋郡萩島に光穩寺のあつたことを記する。

**コウオンジ** 孝恩寺 鹿島郡池崎に在つた。曹洞宗に屬し、松岸旨淵を開基とする。天正中寺主宗顯は還俗して長九郎左衛門連龍となつた。後寛永中改宗して眞宗光雲寺になつたといふ。

**コウカイ** 幸海 白山宮地藏院の僧で、大阿闍梨であつた。幸海が入滅したことは、白山宮莊嚴講中記録觀應三年七月廿四日の條に見える。

**コウガイ** 香外 ↓ランシユウコウガイ 關秀香外。

**コウガイセキラン** 香外石蘭 金澤曹洞宗寶圓寺十八代の住持。生國は若州、寶曆四年二月松山寺より進山し、明和六年十二月隱居、安永六年二月十一日遷化した。

**コウガクイン** 鶴嶽院 富山藩主第十一代前田利友の法號。詳しくは鶴嶽院瑞雲日蓮大居士。

**コウカクジ** 光覺寺 金澤山上町に在つて、雄徳山又は永國山と號し、淨土宗に屬する。前田利家の初めて金澤に封ぜられた時、天正十二年開山善等が越前府中より來り、新丸の内を賜はつて當寺を建立したが、利長の時墨屋町龜淵に移り、寛永十三年更に命ぜられて山上町に移つた。

**コウカクジ** 廣覺寺 羽咋郡里本江に在つて、眞宗東派に屬する。

**コウカシユンジュウ** 耕稼春秋 七卷。寶永四年石川郡御供田村土屋義休の著。農産の播種耕作一切に關することを述べ、正徳四年室鳩巢の序文を加へてある。

**コウガンジ** 高岸寺 金澤野田寺町に在つて、妙榮山と號し、日蓮宗に屬する。天正十五年高岸定吉石川郡白山村に當寺を造立し、日鏡を以て寺主とした。次いで金澤に移り、高岸氏の下屋敷に工を起したが、後更に今の地に移つた。日鏡は定吉の弟で、先に和泉堺の成就寺に住したものである。

**コウガンジ** 高巖寺 金澤三橋に在つて、裁松山と號し、臨濟宗に屬する。慶長十年密

嚴宗顯金澤に來り、十六年妙心寺の末院に住した。藩士生駒内膳直方その徳を慕ひ、十八年に密嚴を開山として建てたもの即ち是である。密嚴は寛永十九年正月九日六十六歳で寂したといふ。高巖寺の塔頭に一草庵があつたが、後に破却せられた。門内に胸高周圍五米、高さ一六米の老松がある。當寺の山號は蓋し之によるものであらう。

**コウガンジ** 迎巖寺 能美郡小松寺町に在つて、眞宗東派に屬する。明治五年寺號を公稱した。

**コウガンジマ** 高巖寺前 金澤三橋高巖寺の前通りをいふ。元祿九年の地子町肝煎裁許附に高岸寺前、享保九年の土帳に光岩寺前ともある。共に高巖寺前の意なるが、光岩寺前をミツガンジマへと訓み誤りたるより、國事員披問答にも高岸寺前又はみつがんまへと記し、後世は三橋と書するに至つた。高巖寺の開祖は密嚴和尚であるから、みつがんまへは密嚴前であるとす説は採らぬ。

**コウカンチヨウセキシユウ** 耕寬釣寂集 一冊。龜田敦著。内題には四未能軒集とある。天保十一年から嘉永六年までに成つた五言絶句一、七言絶句六十一、五言律詩十四、七言律詩七十一、五七言古詩各二を收め、その内天保十三年までの約百首は京儒琴春樵の批點を得て居る。

**コウギゴヨウ** 公儀御用 この職名は古くは見えぬ。大老の勤向であつたのであらう。享保十年十二月十八日日本多安房守政昌・横山大和守貞林が公儀御用の加判を仰付けられるとあるのが、略その初と見え、此の頃この二人は奥村伊豫守有輝と共に大老であつたので